

被災者の積極的な受け入れ等様々な支援活動とネットワークづくり

～NPO 法人^{かくのだて}角館総合型地域スポーツクラブ（秋田県仙北市）～

秋田県クラブ育成アドバイザー 田中忠夫

1 震災の状況とスポーツクラブでの支援活動実施例

2011年3月11日、午後2時46分。東日本大震災は、地震と津波との2段階にわたる波状攻撃が太平洋側東日本を襲い、さらに原発事故という第3の攻撃が襲った複合災害です。被災地では地域で助け合い、困難な生活に耐える被災者の姿が人々の心を打ちました。

NPO 法人角館総合型地域スポーツクラブ（以下、角館総合型 SC）では震災後、ただちに被災地支援の準備に入りました。ただ被災地の詳しい被害状況が入らず、とまどいの日々が続いたことも事実ですが、そんな中で行われた支援活動事例の一端を紹介します。

震災直後、交通や交信網などがズタズタの状況の中でも、「できること」で行動を実施しようと、3月24日、クラブ代表をはじめ中心メンバー3人がワゴン車に乗り、岩手県野田村（設立準備中のクラブがある地域）へ出発。最大の必需品と思われる米、衣類、灯油、灯油ストーブなどをワゴン車一杯に積み込み、ようやくたどり着き、支援物資の配布などの支援活動を行いました。

その後も行政との連携により南相馬市などの被災者（クラブ関係者含む）を仙北市で受け入れ、物資支援などを行っています。



被災者が避難するお寺に支援物資を車から運ぶクラブ員

2 クラブでの継続した支援活動における行政との連携

復興への具体的な対策・支援は、各分野のあらゆる方面、団体も個人も全てと言える程の動きですが、課題を問われると解決への道のりは決して楽ではないことは想像が付き、「これで万全」と言えることは明らかでないのが現状です。

しかし、今言えることは、自分たちのやれることを少しずつ、コツコツと継続して行動することに尽きると思います。

角館は東北の著名な観光地ですが、震災の影響で観光客が激減しました。そこでホテル等宿泊施設では被災者受け入れにより利活用を図ることになりましたが、そのためには組織間の積極的な



荷物を受け取り被災者の方々から感謝されるクラブ員

連携が不可欠です。角館総合型 SC では宿泊できる施設を保有し、行政との連携により被災者受け入れを継続して行っています。

角館総合型 SC では、行政との連携体制により、支援物資などの提供を申し込んできた被災者への支援活動も行っています。例えば、これまで、ボイラー等シャワー機材や自転車などを被災者へ提供しました。また、被災地へ出向いて瓦礫処理などのボランティア活動も行っています。

3 復興地の新しい未来へのステップをスポーツクラブで

東日本大震災は、何百年に一度という非常事態です。社会の在り方や人々の絆、地域づくりを含む将来像を見据え、復興プランの策定・実践が急務です。

総合型クラブには、他の組織にない地域に根差した基本理念があります。復興にはハード面の整備とともにソフト面の充実が求められますが、ソフト面の一部を総合型クラブが担える部分もあると思います。

角館総合型 SC はもちろん、各総合型クラブ関係者は支援活動を継続しながらも他の関係団体（行政含む）を巻き込んだ事業によって、被災地クラブとそれ以外のクラブのネットワーク化を図るなどの、新しいクラブのかたちが求められると思います。

このような支援活動は、1クラブ単位での活動ではなく全国のクラブが関わることで有効に機能します。中核になるプロジェクトチーム（仮称）を、SC全国ネットワーク内に設けるなど、ネットワークで活動していくことが望ましいと考えます。

【NPO 法人角館総合型地域スポーツクラブ プロフィール】

1. 設立

設立年：平成 17 年 5 月 26 日

経緯：大型家具店倉庫をクラブハウスに改築、拠点施設として活動開始

2. 地域

人口：仙北市 29,964 人（平成 23 年 12 月末現在）

特性：田沢湖、角館武家屋敷等観光地としてにぎわっている地域

3. クラブ

会員数：400 人（平成 24 年 1 月現在）

特徴：スポーツ活動とともに囲碁、将棋などの活動も盛ん

予算規模：6,117,975 円（平成 23 年度）

4. 連絡先

〒014-0341 秋田県仙北市角館町勝楽 134

TEL・FAX：0187-54-1505

関連リンク：田中忠夫氏プロフィール（ページ下）

<http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/5.html>